

	月	時数	単元名 項目名	学習目標	評価の観点			評価規準
				学習内容	知	思	態	評価方法
1学期	4月	4	◇歴史的分野 第5章 5節 帝国主義と日本	- 国内の社会状況や国際情勢との関わりなどの背景を踏まえて、欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための長年の努力の過程で条約改正が実現したことを理解させる。 - 大陸との関係を踏まえて、日清・日露戦争に至るまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化などを取り上げ、日本の国際的地位が向上したことを理解させる。	○	○	○	【知】我が国の産業革命を基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。 【思】対外戦争を経て近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】日清・日露戦争と近代産業について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。（定期考査、小テスト、プリント等）
	5月	9	第5章 5節 帝国主義と日本 6節 アジアの強国の光と影 第6章 第1節 第一次世界大戦と民族独立の動き	- 富国強兵・殖産興業政策の下、製糸業、紡績業や鉄鋼業などの近代産業が日清戦争前後から飛躍的に発展して、資本主義経済の基礎が固まったこと、都市や農山漁村の生活に大きな変化が生じたことに気づかせる。 - 近代化遺産を取り上げるなど、身近な地域を例としながら、鉄道網の広がりや工業の発達などによって人々の生活の変化がみられた一方で、労働問題や社会問題が発生したことに気づかせる。 - 伝統的な文化の上に欧米文化を受容して、日本の近代文化が形成されたことに気づかせる。 - ヨーロッパ諸国間の対立や民族問題を背景として第一次世界大戦が起こったことに気づかせるとともに、日本の参戦、ロシア革命などを取り上げて、世界の動きと日本との関連を踏まえて、大戦がその後の国際情勢および日本に大きな影響を及ぼしたことに気づかせる。 - 国際連盟の成立、中国や朝鮮、インドにおける民族運動の高まり、軍縮条約の締結を取り上げ、日本がどのように対応したかを理解させる。	○	○	○	【知】日本の産業革命と国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などをもとに、日本で近代産業が発達し、近代文化が形成されたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 【思】近代化がもたらした文化への影響などに着目して、工業化の進展が国民生活や文化に与えた影響について、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】近代産業の発達と近代文化の形成について、章の問いと関連づけながら「なぜ、近代化によって人々の生活が大きく変化したのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。（学習プリント、小テスト、定期考査） 【知】第一次世界大戦が起こった背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きなどをもとに、第一次世界大戦前後の国際情勢及び日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 【思】第一次世界大戦前後の世界の動きと日本との関連に着目して、第一次世界大戦が世界や日本に与えた影響について、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】第一次世界大戦後の国際情勢について、章の問いと関連づけながら「第一次世界大戦は、世界にどのような変化をもたらしたのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。（学習プリント、小テスト、定期考査）
	6月	9	2節 高まるデモクラシーの意識 3節 戦争に向かう世論	- 国民の政治的自覚が高まり、本格的な政党内閣による政党政治が展開したこと、男子普通選挙が実現したこと、米騒動をはじめ、労働運動、農民運動、社会主義運動などの社会運動が幅広く行われるようになったこと、女性の社会的進出が進んだことなどに気づかせる。 - 大都市の発達や都市に住む人々の生活様式や意識の変化、新聞・雑誌などの普及やラジオ放送の開始などを取り上げ、文化の大衆化が進んだことを理解させる。 - 世界恐慌に対する各国の対策と対立の深刻化、日本における経済の混乱と社会不安の広がりを取り上げ、政党政治が行き詰まりをみせ、軍部が台頭して大陸での勢力を拡張したこと、国際連盟を脱退した日本がドイツと日独防共協定を結んでアメリカやイギリスと対立を深めたこと、中国との戦争が長期化した経緯を理解させる。	○	○	○	【知】第一次世界大戦前後の日本の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などをもとに、大正デモクラシーの時期の政治や社会の動きを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 【思】第一次世界大戦後の世界の動きと日本との関係に着目して、大衆の出現と政治や社会の変化について、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、章の問いと関連づけながら「なぜ、自由で民主主義的な考え方が広まったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。 【知】世界恐慌による経済的世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米の動きなどをもとに、軍部の台頭から第二次世界大戦に至るまでの経過を理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 【思】戦争に向かう時期の社会や生活の変化などに着目して、第二次世界大戦が起こった理由について、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】昭和初期から第二次世界大戦までの世界と日本の政治・外交の動きについて、章の問いと関連づけながら「なぜ、世界や日本では、ファシズムや軍国主義の風潮が強まっていたのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。（定期考査、小テスト、学習プリント等）

	7月	6	4節 第二次世界大戦の惨禍 第7章 1節 敗戦から立ち直る日本	・日本がドイツ、イタリアと三国同盟を結び、アメリカ、イギリス、そして終戦直前に参戦したソビエト連邦などとの大戦になったこと、日本が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下など、日本の国民も大きな戦禍を受けたことなどから、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させ、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気づかせる。 ・戦時体制下で国民の生活がどう変わったかについて、身近な地域の事例を取り上げ、平和な生活を築くことの大切さに気づかせる。 ・戦後の混乱のなかで、国民の貧しさからの解放の願いや平和と民主主義への期待などを背景に、普通選挙の確立や日本国憲法の制定をはじめとして大きな改革が次々に進められ、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力し、現代の日本の骨組みが形成されたことに気づかせる。 ・日本国憲法の基本的原則からその歴史的意義を読み取らせる。 ・戦後の混乱や生活の様子、国民の努力について、身近な地域などの具体的な事例をもとに捉えさせる。 ・冷戦について、国際連合の発足、米ソ両陣営の対立、アジア諸国の独立、朝鮮戦争、その後の平和共存の動きなどを、日本の動きと関連させながら理解させる。	○	○	【知】第二次世界大戦中の日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、戦時下の国民の生活などをもとに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 【思】第二次世界大戦の始まりから終結までの世界の動きと日本との関連などに着目して、第二次世界大戦の惨禍について事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】第二次世界大戦と人類への惨禍について、章の問いと関連づけながら「なぜ世界や日本は、二度目の世界大戦を起こしてしまったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。
	8月	3	2節 世界の多極化と日本の成長	・日本が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰するまでの経緯を理解させる。 ・日本の産業・経済や科学技術の著しい発展とそれに伴う生活の向上や、それらを背景とする世界有数の経済大国への急速な成長、および石油危機が政治や経済に及ぼした影響などに気づかせる。 ・沖縄返還、日中国交正常化などを取り上げ、東アジアとの新たな関係や当時の国際情勢について理解させる。	○	○	【知】国際社会への復帰、高度経済成長、国際社会との関わりなどをもとに、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 【思】日本の独立後の政治展開と、ベトナム戦争や石油危機などの国際社会の動きに着目し、独立後の社会の変化が国民生活へどのような影響を及ぼしたかを考察し、事象を相互に関連づけるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】高度経済成長に伴う社会の変化について、章の問いと関連づけながら「国際社会に復帰した日本は、どのような役割を担うようになったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。

2 学 期	9 月	8	2節 世界の多極化と 日本の成長 3節 これからの日本 と世界	・世界規模での米ソ両陣営の対立が終わったことやその影響に気づかせ、冷戦終結後の国際協調の平和外交の推進や開発途上国への援助なども踏まえ、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解させるとともに、公民的分野の学習に向けた課題意識をもたせる。 ・冷戦終結後も国際社会には、民族や宗教をめぐる対立、国家を超えた地域統合、地球環境問題とその取り組み、資源やエネルギーをめぐる課題、日本と近隣諸国との間の領土をめぐる問題、日本人拉致問題など、主権や人権、平和などさまざまな課題が存在していること、それらを解決するためのさまざまな人々の努力が重ねられていることに気づかせる。	○	○	○	【知】冷戦の終結、グローバル化する世界などをもとに、激変する国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 【思】冷戦終結後の国際社会の変化などに着目して、グローバル化の進展とその影響について、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【主】グローバル化する社会について、章の問いと関連づけながら「現代社会の諸課題の解決に向けて、私たちはどのように取り組んでいけばよいだろうか」という節の問いを主体的に追究、解決しようとしている。
	1 0 月	7	◇経済分野 1 節 経済のしくみと消費	・身近な消費活動を中心に、経済活動の意義を理解できるとともに、価格の働きに着目して市場経済の基本的な考え方について理解できる。 ・経済活動を活発にしていくための消費者の役割と責任を理解できるとともに、消費者の保護など消費者を巡る問題について、政府の取り組みなどを理解できる。 ・p. 127「節の問いをまとめよう」について、p. 174「節の振り返り」の第1節の表に自分の考えをまとめることができる。	○	○	○	【知】価格の決まり方や資源の配分、市場経済の基本的な考え方について理解し、そのしくみを図表などにまとめている。 【知】私たちの生活を豊かにするための消費者の役割と責任を理解しているとともに、国や地方公共団体は消費者の権利の尊重およびその自立の支援のために、消費者政策を推進する役割を担っていることを理解している。 【思】分業と交換、希少性などに着目したり関連付けたりして、経済活動や市場経済の意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【思】経済活動を活発にするための消費者の役割や責任について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【主】経済活動や市場経済の意義について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習課題を解決しようとしている。 【主】個人の消費生活に関する諸問題に着目し、主体的に問題解決しようしたり、学習したことを自らの消費生活に生かそうとしたりしている。（定期考査、小テスト、学習プリント等）
	1 1 月	8	2節企業と生産	・経済を活発にしていくための企業の役割と責任について考えることができる。その際、社会生活における職業の意義と役割および雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義および労働基準法の問題と関連付けて考えることができる。	○	○	○	【知】企業の経済活動に関するさまざまな資料から、社会・経済の動きを適切に読み取り、要点を図表などにまとめるとともに、企業活動のしくみや役割を理解し、勤労の権利と義務、労働組合の意義、企業の社会的責任などについて理解している。 【思】企業の役割や責任、職業の意義および雇用と労働条件の改善について、さまざまな資料を基に課題を見出し、「対立と合意」「効率と公正」などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【主】企業の経済活動について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 ・（学習プリント、小テスト、定期考査）
	1 2 月	7	3 節 市場経済と金融のしくみ	・市場経済では財やサービスの取り引きが貨幣を通して行われていることを理解できるとともに、近年ではデジタル通過という新しい金融サービスを提供する動きがあることを理解できる。 ・市場価格にはさまざまな決まり方があることを踏まえ、市場価格決定のしくみについて考察できる。 ・金融の役割や日本銀行の役割について、多面的・多角的に考察し、表現できる。	○	○	○	【知】市場経済のしくみや価格の働きについて理解している。 【知】金融の役割や日本銀行の金融政策について理解している。 【思】市場経済における価格決定のしくみ、金融の役割、日本銀行の金融政策について、さまざまな資料を基に課題を見出し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【主】通貨や金融に関する新しい動きについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 （学習プリント、小テスト、定期考査）（学習プリント、小テスト、定期考査）

3 学 期	1 月	4	4節 財政と私たち	・社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解できる。また、財政および租税の意義、国民の納税の義務について理解できる。 ・市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。また、財政および租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	【知】公共サービスの提供と税金に着目して、財政のしくみを理解しているとともに、社会資本の整備、公害の防止や環境の保全、社会保障の充実などを通して、私たちの生活が財政の働きにより支えられていることを理解し、さまざまな資料から日本の財政が抱える問題を読み取っている。 【思】少子高齢化が進むなか、国民生活の向上に向けて、公正な税制度のあり方やこれからの社会保障制度と財政のあり方などについて、「効率と公正」「分業と交換」「希少性」などの見方・考え方を働かせて、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【主】国民生活と福祉の向上に向けた政府の役割について、財政に着目して積極的に追究し、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 (学習プリント、小テスト、定期考査、提出物)
	2 月	3	5節 日本経済の課題とこれから	・「現代日本の特色」についての学習と関連付けながら、グローバル化の進行により、日本経済が世界経済の影響を強く受けていることを理解するとともに、これからの日本経済の発展のために必要なことを多面的・多角的に考察し、表現できる。	○	○	【知】景気変動のしくみや日本銀行の役割などに着目して、日本経済の特色を理解するとともに、グローバル化や経済活動のデジタル化が進む中、日本経済の課題について、さまざまな情報手段を活用して情報を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【思】日本経済の発展のためにこれからの日本企業に求められることについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】グローバル化や経済活動のデジタル化が進行するなか、日本経済に見られる課題について、主体的に問題解決しようとしたり、学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。(学習プリント、小テスト、定期考査、提出物)
	3 月	2	5節 日本経済の課題とこれから	・「現代日本の特色」についての学習と関連付けながら、グローバル化の進行により、日本経済が世界経済の影響を強く受けていることを理解するとともに、これからの日本経済の発展のために必要なことを多面的・多角的に考察し、表現できる。	○	○	【知】景気変動のしくみや日本銀行の役割などに着目して、日本経済の特色を理解するとともに、グローバル化や経済活動のデジタル化が進む中、日本経済の課題について、さまざまな情報手段を活用して情報を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【思】日本経済の発展のためにこれからの日本企業に求められることについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主】グローバル化や経済活動のデジタル化が進行するなか、日本経済に見られる課題について、主体的に問題解決しようとしたり、学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。(定期考査、小テスト、プリント等)